

渋谷区総合防災訓練



代々木公園で、首都直下地震を想定した防災関係機関等活動訓練と参加体験型の渋谷防災フェスが行われました。

9月3日

防災関係機関等活動訓練

発災時の時間軸

起震車による揺れの再現



応急救護・初期消火訓練



救出・救助訓練



避難所開設・運営訓練



防災関係機関等活動訓練には、関係機関のほか、町会や自治会を基盤にした防災組織である自主防災組織が参加。発災時から数日後までの状況を時系列で追いながら訓練に取り組みました。

隣近所の安否を確認しながら一時集合場所へ

緊急地震速報と地震発生がアナウンスされ、訓練がスタート。起震車を使って地震の揺れを再現し、家具の転倒防止対策の重要性が訴えられました。続いて、一時集合場所への集合訓練、渋谷消防団への情報提供訓練を行い、隣近所同士の安否確認や情報収集の大切さ、日頃からの共助体制の必要性を確認しました。



消火器・D級ポンプを使用した初期消火

応急救護班、消火班などに分かれ、救助や応急処置などの訓練に取り組みました。消火班は地震による火災発生に備え、D級ポンプ(防火水槽やプール、河川などから水を吸い上げて放水できるポンプ)による消火活動を実施。大規模災害時には住民の手による初期消火が重要であり、D級ポンプは各自主防災組織に配置されています。

災害時には町内の安全は自分たちで確保する、という意識を高めましょう。

新實 晃さん
(恵比寿地区リーダー・
恵比寿南親和会会長)



地域の力を活かした消火・救護活動

渋谷消防署と渋谷消防団による消火活動のほか、災害救助犬による検索活動訓練、担架やリヤカーを使つての救護所への搬送など、地域住民の役割を確認しました。住民や区内在勤者で組織する消防団について「地域で暮らしたり働いたりしているからこそ知っている情報が災害時に活かされる」と、その重要性の説明がありました。

災害時は自助、共助が大切。地域の防災訓練にぜひ参加してください。

吉田 実さん
(渋谷消防団副団長)



避難所では住民の協力が不可欠

避難所開設・運営訓練では、ペット同行避難、女性用スペースの設置などを実施しました。応急給水活動、支援物資の受け入れをはじめ、避難所の運営には避難者自身の参加の重要性が周知されました。また、避難所生活はストレスが溜まりやすいため、自宅での避難生活をするための備蓄の大切さが訴えられました。

ご近所と顔見知りになりましょう。防災もコミュニケーションが大切です。

大石 隆士さん
(大向地区リーダー・
大向地区町会連合会長)



9月2・3日

渋谷防災フェス2017

「ダイバーシティ防災」をテーマに、さまざまな点から防災を考えるトークステージやブース、体験型アクションエリアが設けられました。

BOSAIストリート



シブヤ15のBOSAI体験



▲起震車体験

地震が来てもちゃんと机の下に逃げる練習ができました。

ペットの防災



大切なペットのためにも、普段からの備えが大切だと学びました。

BOSAIトークステージ



▲防災エンスショー



▲渋谷おとなりサンデー 防災編



関防災課災害対策推進係 (☎3498-9408 FAX3498-9410)